

平成30年度対ナイジェリア無償資金協力「ナイジェリア疾病予防センター診断能力強化計画」

(E/N署名式)

日時: 平成31年4月9日(火)

場所: 連邦予算・国家計画省会議室(連邦首都区)

概要: 平成30年度対ナイジェリア無償資金協力「ナイジェリア疾病予防センター診断能力強化計画」に関する書簡署名・交換式典が実施され、日本政府を代表して菊田豊特命全権大使が出席し、アイザック・アデウォレ保健大臣同席の下、ウドマ予算・国家計画大臣との間で署名を行いました。日本政府は、ナイジェリアにおける強靱な保健システムの実現に貢献するため、本プロジェクトを通じてナイジェリア連邦共和国に対して15億8,000万円を拠出しました。

本プロジェクトは、ナイジェリア連邦首都区に位置するナイジェリア疾病予防センター(NCDC)の国家標準検査室敷地内にバイオセーフティ・レベル(BSL)3の封じ込め検査施設を設置することにより、感染症対応及びサーベイランス機能体制の強化を図り、もって同国の包摂的かつ強靱な保健・医療システムの整備に寄与するものです。

「強靱な保健システム」は、2016年にケニアのナイロビで開催されたTICAD VIの際に採択された「ナイロビ宣言」の指導原理の一つです。日本政府及び日本国民は、本プロジェクトによって、より多くのナイジェリアの人々がこれまで以上に保健システムへアクセスすることが可能となり、ナイジェリアの持続的な発展と貧困の削減に貢献できることを願っています。

本式典には、菊田大使の他、奥村JICAナイジェリア事務所長、日本国大使館関係者、JICA事務所関係者、予算・国家計画省関係者、保健省関係者、ナイジェリア疾病予防センター(NCDC)関係者が出席し、当日の様子は当地メディアに幅広く報道されました。

関連：外務省HP (https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_007303.html)



菊田大使によるスピーチ



実施パートナーとの集合写真